

【資料 8-1 伝達順が一人目の実験参加者に配付する刺激文 (菅・唐沢, 2006 を改変)】

中国・広東省出身の留学生 M くんは大学 2 年生である。家族は祖父母と両親、本人の 5 人である。現在は家族と離れ、日本で一人暮らしをしている。

M くんは、いつも通り朝 7 時に起きた。M くんは、バレーボールのサークルに所属しており、昨夜はサークルの友だちとの集まりでカラオケに行った。そのせいか、起きてみると体調があまり良くなかった。布団から出て、テレビをつけると朝のニュースが流れていた。この日はとくに大きなニュースはなかった。M くんは、洗顔や歯磨きなどをしてから、着替えをした。この日は 5 年前に買った服を着た。

1 限から大教室で一般教養の授業があった。学校には授業の 25 分前に着いた。教室に入ると、後ろの方の席に座った。しばらくすると、学部の友だちが来て、M くんの方に座った。M くんは授業が終わってから、友だちが取った先週の授業のノートをコピーした。

夕方に授業が終わり、家に帰ると、夕食を食べた。食べ終えてひと段落したところで、故郷の家族へ手紙を書いた。手紙を書き終えると、好きなバラエティー番組を見た。

注：伝達文を作成する際は、これを読み返すことはできません。今のうちに、枠内のことからをしっかり覚えながら読んでください。